

会 議 録

- 1 附属機関の会議の名称 平成30年度第1回総合教育研究所運営委員会
- 2 開催日時 平成30年7月23日（月） 午前10時00分から
午前11時20分まで
- 3 開催場所 水戸市総合教育研究所 研究室7
- 4 出席した者の氏名
 - (1) 委員 住谷 正己，伴 敦夫，志田 由美子，大須 康行，鯉淵 恵美子，
脇 健仁，弓野 純子，佐藤 誠二，助川 公継，小川 哲哉
 - (2) 執行機関 萩谷 孝男，小川 佐栄子，久保田 直人，蓮沼 邦彦，玉井 康浩，
相沢 秀幸
 - (3) その他
- 5 議題及び公開・非公開の別
 - (1) 平成30年度総合教育研究所運営方針及び事業計画について（公開）
- 6 非公開の理由
- 7 傍聴人の数（公開した場合に限る。） 0人
- 8 会議資料の名称
平成30年度第1回水戸市総合教育研究所運営委員会
- 9 発言の内容

執行機関 ただいまから，平成30年度第1回水戸市総合教育研究所運営委員会を開催いたします。

はじめに，委嘱状につきましては，委員の皆様のお席の前の机上にありますので，御査収くださいますようお願いいたします。委嘱の期間につきましては，任期の関係から平成30年6月7日から1年間となりますので，御了承ください。

続きまして，総合教育研究所所長の ____ からごあいさつを申し上げます。

執行機関 (あいさつ)

執行機関 次に、運営委員会委員の皆様方の御紹介を行いたいと思いたすが、お手元の資料にございます委員名簿に準じまして、住谷委員から自己紹介でお願いしたいと存じます。

委員 (名簿順に自己紹介)

執行機関 ありがとうございます。続きまして、当研究所の出席職員について紹介させていただきます。

執行機関 (職員自己紹介)

執行機関 当運営委員会の出席状況ですが、10名の委員のうち、10名の委員全員が出席しております。水戸市総合教育研究所条例第8条第2項に規定する定足数に達しておりますので、本会議は成立となります。また条例第7条第3項により、「運営委員会に、委員の互選により委員長及び副委員長を置く。」ことになっておりますが、委員長、副委員長の選出については、いかがいたしましょうか。

委員 (事務局に一任との声)

執行機関 それでは、当運営委員会では、慣例によりまして、委員長に水戸市教育会の代表者を、副委員長には水戸市学校長会の代表者を選出してまいりましたので、本年度におきましても、同様に御提案させていただきます。

委員 (異議なしとの声)

執行機関 それでは、委員長を水戸市教育会会長の赤塚中学校校長____様、副委員長を水戸市学校長会会長の第一中学校校長____様をお願いいたします。委員長、副委員長には、前の席へ御移動くださいますようお願いいたします。

それでは、改めまして委員長からごあいさつをお願いいたします。

委員長 (あいさつ)

執行機関 それでは、議事に入りますが、水戸市総合教育研究所条例第8条第1項で「委員長は、会議の議長となる。」と規定されておりますので、住谷委員長よろしくをお願いいたします。

委員長 それでは、議長を務めさせていただきます。早速ですが、次第に基づきまして議事を進めます。「平成30年度総合教育研究所運営方針及び事業について」事務局から一括して説明をお願いします。

執行機関 (平成30年度総合教育研究所運営方針について資料に基づき説明)

執行機関 (水戸スタイルの教育に関する事業について資料に基づき説明)

執行機関 (研究・研修に関する事業について資料に基づき説明)

執行機関 (指導・助言に関する事業について資料に基づき説明)

執行機関 (支援相談に関する事業について資料に基づき説明)

執行機関 (いじめ・青少年相談に関する事業について資料に基づき説明)

執行機関 (放課後児童対策に関する事業について資料に基づき説明)

委員長 御質問、御意見ございましたらお願いいたします。

____委員 水戸スタイルの教育のうち、家庭学習についてですが、現在、家庭学習がほぼドリル学習になっている。それも、1回ではなく、複数回やりなさいということがほとんどであり、答えを書いて出すだけという状況になっていて、家庭学習の意味がどこにあるのかという疑問があります。

____委員 学校の現場では、ドリルを複数回やらせているのに加えて、自主学習として、自分で考えて計画を立てて家庭学習をやるというようにもしている。基礎基本が大事だと考え、まずドリル学習から行い、その後少しずつ考える力、思考力が高まってくると計画を立てて、自主的なノートで、国語、算数、理科、社会、子どもによっては技能教科もやっております。ただ、まだ始まったばかりであり、学校の現場でもどのようにやっていくかという研修を、家庭学習の「指導資料集」を活用して、行うようになってきたところ です。

執行機関 ドリルを繰り返し行って、学習の定着を図ることは非常に重要であると考えております。今年度は、家庭学習の「指導資料集2」というものを作成する予定であり、家庭学習計画表というところに焦点を当てて、各学校で使用している家庭学習表をまとめてみようと考えているところです。その中で、小学校低学年、中学年、高学年及び中学校と、発達段階によって計画表も変わってくると思われるので、各学校で他の学校のやりかたを参考にできるように配布したいと考えております。

そして、最終的には、学校と家庭が協力して取り組むことができるようになることが、学力向上のために重要であると考えております。

____委員 「家庭学習スタートノート」を見させてもらって、学力調査のA問題もB問題を意識した内容になっており、これをしっかりやればかなり力がつくと思います。しかし、まだ保護者のほうが、答えを暗記するのが勉強だというイメージがあると思う。学力の内容が変わってきているということを説明することも必要になってきていると思います。今後、高等学校も含めて、B問題まで対応できるような力が必要になってくる。こういったことを、保護者に伝えていく努力も必要だと感じています。

____委員 この「家庭学習スタートノート」は資質能力の三本柱を意識して作られていると感じました。基本的な知識だけでなく、それを活用する思考力や判断力等が養われるものになっていると思いま

す。

かなりレベルが高いものになっていますが、実際に使ってみて、どうだったのでしょうか。支援が必要な子どもも出てくると思いますが、そのへんを学校でどのように対応しているかが、このノートの活用の成否をわけるのではないかと思います。

ただ、着眼点は、これからの学力を意識したものになっており、方向性としては素晴らしいと思います。

あとは、知的好奇心を促すようなものも工夫していただければと思います。

また、保護者への説明もポイントの一つになると思います。なぜこれがあるのか、内容はどのようなものになっているのか、どういうふうに子どもに学ばせたらよいのか、というような保護者への支援を行いながら有効活用してもらいたいと思います。

____委員

保護者への啓発は、非常に重要であり、まだ、保護者は、一問一答といったドリルをやることが学習というイメージがあり、思考力や判断力をどうして育てていかなければならないかといったものを懇談会等で説明しているところであり、教員の研修とともに、保護者への啓発をさらに行っていきたいと考えています。

子どもたちには、基礎基本の学習とともに、授業の中で、学び合いということで、話し合いの時間を持つようにしています。

____委員

「家庭学習スタートノート」は、小学校4年生で実施しているということで、小学校5年生の子どもを持つ保護者の身としては、その存在を知らなくても仕方がないのかとも思いましたが、なぜこういうものを使用するようになったのかという経過があり、それは他の学年の保護者にも知らせてもらい、家庭学習を行う上で、どういうふうに取り組んでいったらよいか、学校と保護者が話し合う場があったらいいと思いました。

この「ノート」だけが届いて、その趣旨がわからないままだと、ドリルをやらせるだけでも大変なのに、さらにこの「ノート」もやらせなければならないのかと、親としては思ってしまう。しかし、これをやらせることで、親も子どもの理解度を確認したりできるので、この取組を他の学年でも周知してもらったらよかったです。

P T A連絡協議会で、今後、資料とともに説明をしてもらったりして、それを単位P T Aで保護者に伝える等の方法も取れると思うのと、さきほどの家庭教育の「指導資料集2」を作成することでしたが、保護者向けにもどのように子どもの学習にかかわっていったらよいかといったものも教えてもらえれば、P T

Aとして保護者の皆さんに伝えていくこともできると思います。

____委員 この「ノート」の答えのまる付けは、学校で行うのでしょうか、それとも保護者が行うのでしょうか。

執行機関 解答も「ノート」についており、保護者がまる付けを行うこともできます。それは、学校によって違います。

____委員 「ノート」には、基礎問題や応用問題がありますが、問題も4年生くらいになってくると、かなり難しくなってくるので、保護者もわからない問題等がありそうですが、どこまで解説がついているのか。保護者が教えられない問題があるのではないかという心配も少しあります。

____委員 B問題については、答えがわかるということではなく、考えることが大切だ、ということがこれからの学習で重要になってくることなので、答えを知らなければならないという保護者の感覚と、これからの学習の内容の差を埋めることが必要だと今の話を聞いていて改めて思います。

委員長 今の話は、積極的に家庭学習に関わろうとする保護者の意見であるので、学校の現場では、関わろうとしない保護者に対し、どのように対応していくかということも大きな問題となってくるかと思えます。

この「ノート」については、今年度、4月から始まった取組なので、家庭と学校が協力しながら実施していくというのが基盤となればありがたいと思います。

今後、皆様から御意見いただきながら、総合教育研究所からも啓発に努めながら実施していくということでもよろしいでしょうか。

家庭学習以外のことで、御意見等ございますか。

____委員 先日、水戸市のPTAの会長会議があり、その時にもう少し時間が取ればよかったですのですが、「うめの香ひろば」についてもっとPRしたほうが良いとの意見があり、チラシを配ってもらったのですが、その存在自体知らない方がけっこういるので、各学校のPTAにパンフレット等を配布してもらえればと思います。そして、各学校のPTAでは、それを引き継いでいき、情報提供等に活用していきたいと考えています。

執行機関 配布できるように進めていきたいと思えます。

____委員 研修・研究についてですが、茨城県の教員採用試験で、小学校で倍率が、2.3倍と、非常に危機的状況にあります。教員は、多忙ということで、悪いイメージばかりが先行している。なりたいたいと思う若者が減っている。人材の質の確保を考えると、最低でも倍率は、5倍は必要だといわれています。そうすると、教員の研修

をさらに強化していかなければならないという悪循環に陥ってしまう。大学，高等学校，中学生，小学生の段階で教師の魅力を伝えていくという部分についても，市や小中学校と連携していければと思います。

副委員長 中学校でも職場体験に学校を希望する生徒はかなり少ないのが現状です。学校の現場でも，危機感を感じており，何か教員の仕事の魅力をPRしたいということで，学校でも取り組んでいるところですが，子どもや家庭にそれを伝えていく難しさを感じています。部活動の難しさや勤務時間の長さなどばかりが取り上げられていますが，現場の先生の姿を見せることで，教員の仕事の魅力を見せていくしかないと考えています。

____委員 やがて，何年かすると，採用数は，大幅に減ると予想されます。少子化と連動して，統廃合が進んでいくと思います。今後，ますます先細りになってしまうので，水戸市とは，やめてしまう人も多いので，新任教員も救えるように，若手研修等でも連携していきたいと考えています。

____委員 これから，若い世代も入ってきて，その世代とどのように協働していくのかということも課題の一つではないかと感じているところです。生徒指導についても，経験のない教員が入ってくる中で，SNS等問題も多様化している中で，どのように指導していくかということも考えていかなければならないと感じています。

____委員 昨年勤務していた中学校では，学級に2から3人くらいは，学校の先生になりたいという生徒がいました。人のためになる仕事がしたいという生徒もいました。それをどのように先につなげていくかということ，夢を持続させていくかということが重要であると思います。高等学校等とのつながりが大切であると思いました。

____委員 これから教員になりたいという人への研修というか，大学生が現役の先生方と交流して，将来のイメージができるような研修もやっていければよいと思います。

委員長 現在，茨城大学では2年生から，教育実地研究入門ということで，学校へボランティア等で来ています。

それ以前に，教員を目指す学生をたくさん作りたいということなので，魅力を伝えることもぜひやっていこうと思います。

____委員 水戸市では，「教育元気人」の表彰を今もやっていますか。教員の中で頑張っている方々というのは，教員のモデルになる方々であり，こういった部分でその活用を図っているのでしょうか。

執行機関 「教育元気人」は，ベテランであり実績のある方々ですので，

「授業名人」として、他の教員が学ぶ機会を得ることができるよう活用しております。

____委員

水戸の教育は素晴らしい内容であり、日本遺産の活用など、先生も意識しながら子どもに伝えている。さらに、保護者も共に学ぶ、教員と子どもだけではなく保護者も学ぶ機会というものも意識していくとさらに効果が上がるのではないかと思います。

さらに、いろいろな発表会などをやっていて、芸術館を使った発表会もやっていると思いますが、素晴らしいので保護者にも見てもらいたいと思うのですが、会場の席数の都合等もあるとは思いますが、保護者の参加等はどのような状況でしょうか。

執行機関

日本遺産の活用等につきましては、次世代エキスパート育成事業で弘道館等を会場としたりしており、その場に保護者も一緒に参加していたりしております。

合唱の祭典による芸術館での発表につきましても、席数の問題はありますが、なるべく多くの保護者が参加できるよう工夫しているところです。水戸の素晴らしい取組を周知するという意味では、一般の方々にも見ていただきたいという思いもありますが、現在は一般客については、保護者優先ということで、入場を制限しているという現状があります。

____委員

放課後児童対策についてですが、かなりの待機児童が出ている状況ですが、その子どもたちは、現在どういう状況なのでしょう。

執行機関

入級できないでいる子どもの状況の把握はできておりませんが、開放学級に入級できない場合、ファミリーサポート事業や民間の学童クラブ等もごございますので、福祉部門の担当課の案内などを行っております。

待機児童の解消及び今後全小学校での6年生までの受入れをするためには、学級数の増設や開放学級支援員の確保に努めてまいります。

執行機関

支援員の確保につきましては、昨年度までは、ハローワークでの求人やホームページ、「広報みと」等での募集を行い、昨年度までは、何とか必要数を確保できていましたが、今年度は、確保できていない状態が続いており、市立小・中・義務教育学校全校に募集の案内を配布したところです。

委員長

まだまだ御意見はあるかと思いますが時間ですので、以上をもちまして議事を終了いたします。委員の皆様方には、議事進行にあたり御協力を賜り、ありがとうございました。それでは、事務局に進行をお返しします。

執行機関 以上をもちまして、平成 30 年度第 1 回水戸市総合教育研究所運営委員会を終了いたします。本日は御多用中のところ御出席いただき、誠にありがとうございました。